

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	文化振興事業				財務会計上の事業名	市民文化会館管理運営事業、文化振興財団補助事業、落語みゆーじあむ事業、カルチャープラザ管理運営事業
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	5	4	1	1	担当部署名	人権・文化国際課
総合計画の体系	章	第5章豊かな心を育む教育と文化のまち				
	節(施策)	第4節市民文化の創造				
	項目	項目1 まちのミュージアム化の推進				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	いけだ市民文化振興財団が実施する文化事業を支援し、各施設(市民文化会館、カルチャープラザ、落語みゆーじあむ)の利用を促進する。
めざす姿(目標)	文化事業の振興及び各施設の利用促進を図り、池田のまちを歩くことで、長い歴史や伝統、高い芸術性を実感できるようにする。
事業の対象(誰を、何を)	一般財団法人いけだ市民文化振興財団、落・楽倶楽部『いけだ』
事業の手段・方法(どのように)	指定管理者による文化施設の維持管理や自主文化事業の実施により、文化の振興を図る。
実施形態(直営/委託)	全部委託
関連計画	

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	
	(決算)	(決算)	(予算)	
事業費(千円) A	226,310	250,353	244,500	
主な内訳	文化会館指定管理料	151,200	172,983	167,200
	落語みゆーじあむ指定管理料	17,550	18,400	18,000
	カルチャープラザ指定管理料	34,560	35,970	36,300
財源	国・府支出金			
	地方債			
	その他(市民文化会館目的外使用料、カルチャープラザ使用料)	9,972	8,993	9,969
	うち受益者負担 B			
	一般財源 C	216,338	241,360	234,531
一般財源比率 C÷A	95.6%	96.4%	95.9%	
受益者負担率 B÷A				

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
☆成果の達成状況	市民文化会館利用件数	2,580件/年	2,311件	2,700件/年
	落語みゆーじあむ来場者数	30,745人/年	31,208人	31,000人/年
	カルチャープラザ利用者数	57,086人/年	56,928人	57,300人/年
	文化事業(文化会館外)参加者数	35,950人/年	35,634人/年	36,500人/年
・上記「達成状況」選択の理由	A.順調に推移している 新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館を考慮すると、数値は安定的に推移していることから。			
☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)			
☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)			
・上記「有効性・効率性」選択の理由	カルチャープラザ、落語みゆーじあむについて、令和元年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3月12日以降閉館したため入場者数は昨年度より減となったが、それを除けば順調に利用者数を伸ばしている。			

5 事業の現況と今後の見通し

<p>本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月12日～5月31日まで臨時休館。令和2年6月より開館しているが、イベントの中止・延期が増えており、収束するまではコロナ以前の利用者数を確保するには時間を要する見込み。</p>	
<p>目標達成に向けた課題</p> <p>コロナ禍でイベントを実施するにあたり、国の動向を注視し、ガイドラインを遵守して事業を実施すること。</p>	<p>課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性</p> <p>現状維持</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 いずれの施設も安定的に事業を実施し、施設の管理運営を行っているため。</p>

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	細河活性化イベント補助事業				財務会計上の事業名	市制施行80周年記念事業
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	5	4	1	2	担当部署名	人権・文化国際課
総合計画の体系	章	第5章豊かな心を育む教育と文化のまち				
	節(施策)	第4節市民文化の創造				
	項目	項目1 まちのミュージアム化の推進				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和元年度
事業内容	市制施行80周年を記念し、アートを活用したイベントを開催する細河活性化イベント実行委員会に対して補助金を交付する。
めざす姿(目標)	地元住民が細河地域で開催するアートを活用したイベントを支援することで、文化の振興を図るとともに、細河地域の活性化を推進する。
事業の対象(誰を、何を)	細河活性化イベント実行委員会
事業の手段・方法(どのように)	実行委員会へ補助金を交付することにより、細河地域の活性化を図る。
実施形態(直営/委託)	全部委託
関連計画	

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)
	(決算)	(決算)	(予算)	
事業費(千円) A		9,000		
主な内訳	補助金	9,000		
財源	国・府支出金			☆成果の達成状況 A.順調に推移している ・上記「達成状況」選択の理由 実行委員会や当日の運営に、多くの若者がボランティアで参加し、池田では開催したことのなかった形態のイベントとなったまたアンケートの結果、98%の方が「継続した開催を望む」と回答したことから。 ☆目標達成のための有効な事業内容となっているか A.有効的である(改善の余地がない) ☆事業は効率的に実施できているか A.効率的である(改善の余地がない) ・上記「有効性・効率性」選択の理由 地元住民が主体となった実行委員会において、議論を交わし、市内外の方に細河を楽しんでもらえるような事業を企画し、結果、成功裏に終えることができたことから。
	地方債			
	その他()			
	うち受益者負担 B			
	一般財源 C		9,000	
一般財源比率 C÷A		100.0%		
受益者負担率 B÷A				

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
参加アーティスト数		47組	
ポタニカルフェスティバル来場者数		5,000人	

5 事業の現状と今後の見通し

本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等) 今回の開催をきっかけに、継続した開催が望まれるところ。	
目標達成に向けた課題 開催を継続していくため、企業の協賛金を増やすなど、予算面で課題があるところ。	課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性 廃止 《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 市の補助金交付については予算化されていない。

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	文化芸術活動支援事業				財務会計上の事業名	文化振興助成事業、社会人落語日本一決定戦開催事業、ギャラリー管理事業
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	5	4	2	1	担当部署名	人権・文化国際課
総合計画の体系	章	第5章豊かな心を育む教育と文化のまち				
	節(施策)	第4節市民文化の創造				
	項目	項目2文化芸術活動の担い手の育成				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	社会人落語日本一決定戦を実施するとともに、市民が気軽に芸術に触れ合うことができるギャラリーの管理運営を行う。また、文化・スポーツ分野で貢献した人に奨励金及び記念品を交付する。
めざす姿(目標)	社会人落語日本一決定戦の応募者・集客数を増大させるとともに、ギャラリーの利用促進を図り、文化芸術活動の担い手を育成する。
事業の対象(誰を、何を)	池田市民及び池田市民が構成する団体
事業の手段・方法(どのように)	①申請のあった文化活動事業へ補助金の交付(文化振興補助金)。②文化・スポーツ分野で全国大会に出場・入賞するなど、顕著な成績をおさめた市民へ、市長から奨励金を交付(文化振興奨励金)。③社会人落語日本一決定戦実行委員会へ負担金を交付する。
実施形態(直営/委託)	一部委託
関連計画	

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A	13,081	12,059	12,075					
主な内訳	報償費(文化振興奨励金)	697	359	750	社会人落語日本一決定戦応募者数	288人	345人	350人
	負担金(社会人落語日本一決定戦)	6,900	6,000	5,300	社会人落語日本一決定戦語集客数	10,160人	9,730人	11,000人
	指定管理料(ギャラリー)	5,184	5,450	5,500	ギャラリー貸出件数	38件/年	33件/年	40件/年
					ギャラリー来場者数	16,971人/年	14,409人/年	20,000人/年
				☆成果の達成状況	A.順調に推移している			
財源	国・府支出金				・上記「達成状況」選択の理由	新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館を考慮すると、数値は安定的に推移していることから。		
	地方債					☆目標達成のための有効な事業内容となっているか		
	その他(文化振興基金、ギャラリー使用料)	6,950	7,500	6,950	A.有効的である(改善の余地がない)			
	うち受益者負担 B				☆事業は効率的に実施できているか			
一般財源 C	6,131	4,559	5,125	・上記「有効性・効率性」選択の理由	A.効率的である(改善の余地がない)			
一般財源比率 C÷A	46.9%	37.8%	42.4%		ギャラリー使用がない場合でも、指定管理者保有の作品を展示することにより、常時市民が身近にアートに触れる機会を提供する工夫をしているため。			
受益者負担率 B÷A								

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現況と今後の見通し

本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)	
令和2年度は新型コロナウイルスの影響により多くの文化イベントやスポーツ大会が中止・延期となっていることから、いずれの事業も利用者の減少が見込まれる。	
目標達成に向けた課題	課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性
社会人落語日本一決定戦については、継続して安定的な開催ができるよう、主催者と連携しながら実施する。ギャラリーの施設管理については、コロナ禍においても市民が身近にアートに触れられる機会が提供できるよう、指定管理者と連携を図る。	<p style="text-align: center;">その他</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 予算上の理由から、文化振興助成事業については実施の可否について検討する。</p>

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	市史編纂事業				財務会計上の事業名	市史編纂事業
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	5	4	3	1	担当部署名	生涯学習推進課
総合計画の体系	章	第5章豊かな心を育む教育と文化のまち				
	節(施策)	第4節市民文化の創造				
	項目	項目3ふるさとの文化の保護・醸成				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	歴史資料の調査・収集・整理・保存・活用を行うとともに、池田の歴史のダイジェスト版やマップの刊行・WEB構築を行う。
めざす姿(目標)	安定的な資料保存への道筋をつけ、次期編纂や資料を後世に残す環境を整える。また、市民が市の歴史への理解と関心を高める基礎を整える。
事業の対象(誰を、何を)	歴史資料全般、池田市域の歴史、および市史
事業の手段・方法(どのように)	・資料調査・収集・整理・保存および研究 ・市史編纂委員による保存活用方針などの検討 ・展示・市広報誌・HP・チラシやポスター等によるPR ・レファレンスの対応 ・市史の配布・販売
実施形態(直営/委託)	直営
関連計画	・池田市歴史文化基本構想

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値 (活動・成果)
	(決算)	(決算)	(予算)	
事業費(千円) A	1,919	2,174	2,248	
主な内訳	報償金	798	900	822
	印刷製本費	46	139	53
	機器借上料	558	557	570
	国・府支出金			
地方債				
その他(市史売却)	42	296	60	
うち受益者負担 B				
一般財源 C	1,877	1,878	2,188	
一般財源比率 C÷A	97.8%	86.4%	97.3%	
受益者負担率 B÷A				

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
安定的な資料保管率	5.0%	10.0%	30.0%
ダイジェスト・マップの刊行	0点	0点	1点
展示PR(市民向け写真展など)	0回	2回	1回
☆成果の達成状況	A.順調に推移している		
・上記「達成状況」選択の理由	資料の調査・収集・整理・保管を着実に実施。また、写真展・広報誌などのPR・市史の値下げなど、市民が郷土史に触れる機会を増やすことができた。		
☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)		
☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)		
・上記「有効性・効率性」選択の理由	指標である安定的な資料保管は一定進んでいる。効率性については、業務のメインとなる資料調査・整理は専門性が高く、きめ細かなマンパワーが不可欠であり、展示業務を新たに加える中で、さらなる改善は困難。		

5 事業の現状と今後の見通し

本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)	
平成23年に施行された公文書管理法で、地方公共団体は、保存文書の適切な管理に努めることが規定されるなど、資料は郷土の歴史や将来を知るうえで必要不可欠なもので、市民の共有の財産・インフラであるという認識は高まっている。また、近年の文化財保護法改正に見られるように、歴史文化遺産を活かしたまちづくりに焦点が当てられ、当市でも平成29年に「池田市歴史文化基本構想」を策定したところであり、歴史資料の保存と活用はその根幹となっている。こうした現状より、次世代に引き継げるような安定的な資料収集と整理・保存、さらにPRや活用を通して市民が郷土史に触れる土台を整え郷土史を涵養することは市の責務である。	
目標達成に向けた課題	課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性
市史編纂で収集し続けている歴史資料については後世の市民も含めた共有財産として永続的な収集・整理・保存・管理ができる場所と体制が必要。同時にHPや資料閲覧など、市民が市史編纂・資料保存の成果にアクセスしやすい環境の整備が必要。	現状維持 《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 従来同様、資料収集・整理・保存・管理を継続する。併せてダイジェスト・マップ・HP構築・展示などのような、市史編纂の成果の具体化を進める。

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	古文書・歴史資料調査事業				財務会計上の事業名	古文書・歴史資料調査事業
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	5	4	3	2	担当部署名	生涯学習推進課
総合計画の体系	章	第5章豊かな心を育む教育と文化のまち				
	節(施策)	第4節市民文化の創造				
	項目	項目3ふるさとの文化の保護・醸成				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	市内に伝来する古文書・歴史資料を調査・把握し、目録の作成、写真撮影、翻刻などを行う。
めざす姿(目標)	地域の歴史の解明と資料継承の啓発を進めるとともに、長期的な保存対策を推進する。
事業の対象(誰を、何を)	市内に所在する古文書・歴史資料
事業の手段・方法(どのように)	所在の確認、調査、受け入れ、整理、目録作成、撮影複写、および保存対策を施す。
実施形態(直営/委託)	直営
関連計画	・池田市歴史文化基本構想

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)	
	(決算)	(決算)	(予算)		
事業費(千円) A	170	169	171		
主な内訳	報償金	143	143	144	
	消耗品費	18	18	18	
	印刷製本費	9	8	9	
	その他()				
うち受益者負担 B					
一般財源 C	170	169	171		
一般財源比率 C÷A	100.0%	100.0%	100.0%		
受益者負担率 B÷A					

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
古文書・歴史資料整理件数	1件	1件	1件
☆成果の達成状況	A.順調に推移している		
・上記「達成状況」選択の理由	着実に古文書・歴史資料の調査・保存に結びついている。		
☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)		
☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)		
・上記「有効性・効率性」選択の理由	指標である古文書・歴史資料の調査の件数は横ばいではあるが、最低限の事業費・体制で着実な成果を積み上げている。		

5 事業の現状と今後の見通し

<p>本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)</p> <p>古文書や歴史資料は郷土の歴史や将来を知るうえで必要不可欠なものであり、当市で平成29年に策定した「池田市歴史文化基本構想」でも地域の宝・財産として保存と活用がうたわれている。他方、近年、市内でも旧家屋の建て替えによる物理的要因や、世代交代などによる意識の変化などにより、古文書・歴史資料の散逸が急速に進んでいる。こうした現状より、資料保存の重要性を発信・PRするとともに、古文書・歴史資料の所在の確認を行い、少しでも原資料が残るよう、受け入れなども視野に入れて、保存対策を行うことが、より強く求められている。</p>	
<p>目標達成に向けた課題</p> <p>一度確認した古文書や歴史資料であっても、それらの現状を常に把握することは困難であり、また、個人資料に関しては相続などが絡む事例も増えており、今後、散逸の可能性がさらに加速していく可能性がある。</p>	<p>課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性</p> <p>現状維持</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 古文書・歴史資料の散逸という現状がある以上、貴重な資料を少しでも後世に残すための一助となるよう、継続して取り組むべきと考える。</p>

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	文化財保護事業				財務会計上の事業名	文化財保護事業
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	5	4	3	3	担当部署名	生涯学習推進課
総合計画の体系	章	第5章豊かな心を育む教育と文化のまち				
	節(施策)	第4節市民文化の創造				
	項目	項目3ふるさとの文化の保護・醸成				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	歴史文化基本構想をもとに文化財の保護・調査を行う。
めざす姿(目標)	指定文化財の保存修理を行い、市にある文化財を後世に残す。
事業の対象(誰を、何を)	重要文化財管理者
事業の手段・方法(どのように)	重要文化財の保護に必要な消防設備点検に補助を行なう。
実施形態(直営/委託)	一部委託
関連計画	・池田市歴史文化基本構想

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値 (活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時 (H30年度)	実績 (R元年度)	目標値 (R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A	5,058	4,115	2,990	文化財調査件数 指定文化財説明板取替数 修理補助件数	3件 1件 2件	3件 1件 1件	3件 1件 1件	
主な内訳	補助金	4,879	3,522					1,980
	消耗品費	179	194					37
	ガバ活用委託料		315					933
☆成果の達成状況					A.順調に推移している			
財源	国・府支出金				・上記「達成状況」選択の理由	説明板の更新は十分ではないが、保存修理が必要な重要文化財の修理対応はできている。		
	地方債							
	その他()				☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)		
	うち受益者負担 B				☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)		
	一般財源 C	5,058	4,115	2,990	・上記「有効性・効率性」選択の理由	説明板の更新は十分ではないが、保存修理が必要な重要文化財の修理対応はできている。		
一般財源比率 C÷A	100.0%	100.0%	100.0%					
受益者負担率 B÷A								

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現状と今後の見通し

<p>本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)</p> <p>文化財の紹介方法等、新しいPR方法が必要と考える。</p>	
<p>目標達成に向けた課題</p> <p>文化財の活用方法の模索</p>	<p>課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性</p> <p>現状維持</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 令和2年度から5か年で重文声引絵(逸翁美術館)の修理補助を行なう。 新規文化財調査・現状文化財調査を継続的にを行い、文化財の把握に努める。</p>

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	文化財公開展開催事業				財務会計上の事業名	文化財公開展開催事業
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	5	4	3	4	担当部署名	生涯学習推進課
総合計画の体系	章	第5章豊かな心を育む教育と文化のまち				
	節(施策)	第4節市民文化の創造				
	項目	項目3ふるさとの文化の保護・醸成				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	文化財に親しみを持ってもらうため、文化財公開ウォーキングを企画し、指定文化財や史跡を公開・紹介する。
めざす姿(目標)	市内に所在する文化財や史跡を一般に広く公開することにより、市民の文化財や歴史に対する愛護思想を普及啓発する。
事業の対象(誰を、何を)	市民
事業の手段・方法(どのように)	指定文化財や史跡などを文化財保護審議会委員による現地解説つきで巡り、市民がさまざまな貴重な文化財に触れる機会を設ける。
実施形態(直営/委託)	直営
関連計画	・池田市歴史文化基本構想

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A	35	25	40	参加者数	30人/回	50人/回	40人/回	
主な内訳	35	25	40					
報償金								
財源				☆成果の達成状況	A.順調に推移している			
国・府支出金				・上記「達成状況」選択の理由	コースや天候により参加者の増減はあるが、常に一定数の参加者があり、好意的な評価を得ている。			
地方債								
その他()				☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)			
うち受益者負担 B				☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)			
一般財源 C	35	25	40	・上記「有効性・効率性」選択の理由	成果指標の値はコース・天候により増減するが一定数を上げている。普段は公開されていない文化財や身近な史跡などを専門家の解説とともに見学できる貴重な機会であり、小額の予算で市民に対して文化財への理解を深めることが出来ている。			
一般財源比率 C÷A	100.0%	100.0%	100.0%					
受益者負担率 B÷A								

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現状と今後の見通し

<p>本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)</p> <p>郷土の歴史や文化財に触れ、知りたいというニーズは常にある。また、近年では文化財保護法改正などにみられるように、地域がそれぞれの歴史文化遺産の魅力を高め、それらを活かしたまちづくりを目指す動きが本格化し、当市でも平成29年に「池田市歴史文化基本構想」を策定したところである。こうした現状より、市民自らが身近で貴重な地域の歴史文化遺産を守り育てる担い手になることにつながるためにも、市民が地域の文化財や史跡に触れ、理解を深め、郷土史を継続的に知ることができている機会を設けることが必要である。</p>	
<p>目標達成に向けた課題</p> <p>効果的な周知による新規参加者の増加と、次年の参加も希望してもらえるような内容の充実</p>	<p>課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性</p> <p>現状維持</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 郷土の理解を深めるために基本的かつ有効な施策の一つであり、新しい媒体での周知や、新たなコースやテーマ設定を採り入れながら、継続して実施する。</p>

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	埋蔵文化財緊急発掘調査事業				財務会計上の事業名	埋蔵文化財緊急発掘調査事業
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	5	4	3	5	担当部署名	生涯学習推進課
総合計画の体系	章	第5章豊かな心を育む教育と文化のまち				
	節(施策)	第4節市民文化の創造				
	項目	項目3ふるさとの文化の保護・醸成				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	遺跡の範囲内で建築工事を行う場合に、必要に応じて埋蔵文化財の発掘調査を行い、保存・保護する。
めざす姿(目標)	埋蔵文化財の保護・活用を推進する。
事業の対象(誰を、何を)	市民等
事業の手段・方法(どのように)	発掘調査
実施形態(直営/委託)	一部委託
関連計画	池田市歴史文化基本構想

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A	1,245	2,912	2,950	事業に伴う発掘調査件数 埋蔵文化財発掘届	5件 52件	2件 55件	5件 52件	
主 な 内 訳	賃金(～H30)報酬金(R1～)	123	682					990
	印刷製本費	182	204					230
	掘削委託料	608	649					1,600
☆成果の達成状況					A.順調に推移している			
財 源	国・府支出金	600	1,000	1,000	・上記「達成状況」選択の理由	開発に伴う発掘調査は、延滞もなく処理できている。		
	地方債							
	その他()				☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)		
	うち受益者負担 B	0	0	0	☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)		
一般財源 C	645	1,912	1,950	・上記「有効性・効率性」選択の理由	開発に伴う発掘調査は、延滞もなく処理できている。			
一般財源比率 C÷A	51.8%	65.7%	66.1%					
受益者負担率 B÷A								

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現状と今後の見通し

<p>本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)</p> <p>補助金を得て事業が予算化されているため、緊急な発掘調査にも対応できている。今後も現規模の予算で継続が必要である。</p>	
<p>目標達成に向けた課題</p> <p>専門職員の高齢化。</p>	<p>課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性</p> <p>現状維持 《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 令和3年度専門職員の採用。事業も継続。</p>

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名		国指定文化財管理費補助事業				財務会計上の事業名		国指定文化財管理費補助事業	
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号		5	4	3	6	担当部署名		生涯学習推進課	
総合計画の体系	章	第5章豊かな心を育む教育と文化のまち							
	節(施策)	第4節市民文化の創造							
	項目	項目3ふるさとの文化の保護・醸成							

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	国指定文化財(久安寺、八坂神社、逸翁美術館)の防災管理に対して、補助金を交付する。
めざす姿(目標)	防災設備を維持し、国指定文化財を後世に継承する。
事業の対象(誰を、何を)	重要文化財管理者
事業の手段・方法(どのように)	重要文化財の保護に必要な消防設備点検に補助を行なう。
実施形態(直営/委託)	直営
関連計画	

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A	110	94	94	-	防災設備保守・管理修理	3件	3件	3件
主な内訳								
補助金	110	94	94					
☆成果の達成状況					A.順調に推移している			
財源	国・府支出金			-	上記「達成状況」選択の理由	設備点検を行うことで、重要文化財が守られている。		
	地方債							
	その他()							
	うち受益者負担 B							
一般財源 C	110	94	94	☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)			
一般財源比率 C÷A	100.0%	100.0%	100.0%	☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)			
受益者負担率 B÷A				上記「有効性・効率性」選択の理由	補助金があるため、重要文化財管理者の負担が軽減され、設備の修理なども行える。			

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現状と今後の見通し

本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)	
建造物の文化財について、いたずらによるき損については対応できていない。管理者による防犯カメラ等の設置が必要となるが、負担も増す。	
目標達成に向けた課題	課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性
管理者の負担軽減	現状維持 《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 現状維持だが、必要に応じて対応する。

行政評価シート(令和元年度実施事業)

1 事務事業名・総合計画の体系等

第3期実施計画の事業名	歴史民俗資料館管理運営事業				財務会計上の事業名	資料館管理事業、資料館運営事業、常設展、特別展開催事業
第3期実施計画の区分章/節(施策)/項目/事業番号	5	4	3	7	担当部署名	歴史民俗資料館
総合計画の体系	章	第5章豊かな心を育む教育と文化のまち				
	節(施策)	第4節市民文化の創造				
	項目	項目3ふるさとの文化の保護・醸成				

2 事業の概要

実施期間(第3期実施計画期間)	令和元年度～令和4年度
事業内容	歴史民俗資料館の適切な管理運営を行うとともに、館蔵資料を充実させ、各種展示を行う。また、ワークショップや出前講座(授業)などの教育・普及活動を行う。
めざす姿(目標)	資料の収集・保存、調査・研究、展示・公開に加え、教育・普及活動を通じた地域貢献を図る。
事業の対象(誰を、何を)	市民、来館者
事業の手段・方法(どのように)	池田市域及び関連地域の歴史・文化に関する調査・研究・展示・教育普及活動
実施形態(直営/委託)	直営
関連計画	・池田市歴史文化基本構想

3 事業費等

区分	H30年度	R元年度	R2年度	指標値(活動・成果)	指標の内容	実施計画策定時(H30年度)	実績(R元年度)	目標値(R4年度)
	(決算)	(決算)	(予算)					
事業費(千円) A	4,666	14,929	17,335	利用者数		19,800人/年	20,203人/年	19,800人/年
主な内訳	修繕料	289	287	274	池田の歴史・文化に関する資料の購入・寄贈・寄託	11件/年	15件/年	5件/年
	印刷製本費	738	664	38	特別展・企画展の開催回数	5回/年	4回/年	5回/年
	通信運搬費	1,136	1,222	1,003	出前授業利用学校数	8校/年	9校/年	10校/年
☆成果の達成状況					A.順調に推移している			
財源	国・府支出金				・上記「達成状況」選択の理由	利用者数、開催回数、資料収集件数、出前授業実施件数は概ね目標を達成している。		
	地方債							
	その他(雑入等)	314	609	90	☆目標達成のための有効な事業内容となっているか	A.有効的である(改善の余地がない)		
	うち受益者負担 B				☆事業は効率的に実施できているか	A.効率的である(改善の余地がない)		
	一般財源 C	4,352	14,320	17,245	・上記「有効性・効率性」選択の理由	展示の開催回数は、コロナウイルス感染症の影響で3月の企画展が中止となったため減少したが、利用者数は平成31年4月から祝日を開催したこともあり、一定の成果は得られている。資料収集件数、出前授業実施件数は横ばいで、資料の寄贈者や出前授業参加児童が後日見学に訪れるなど、地域の歴史継承に貢献している。		
一般財源比率 C÷A	93.3%	95.9%	99.5%					
受益者負担率 B÷A								

4 成果の達成状況、有効性・効率性評価

5 事業の現況と今後の見通し

<p>本事業をとりまく状況の変化(社会情勢・ステークホルダー・要望等)</p> <p>昭和55年の開館以来、池田市域の歴史、文化を紹介する施設として、収集・保管している資料をもとに展示や教育普及活動を行っている。令和元年度に隣接していた図書館が移転したことにより、それまで同館で取りまとめていた2施設の管理・運営に関する事業を、歴史民俗資料館が担うことになった。そのため事業費が増加した。歴史民俗資料館は、開館から40年経過し、施設は老朽化による機能更新の必要と資料の増加による保管場所の不足という課題に直面している。これらの課題は地域の歴史文化の保存・継承という本事業の目標達成にかかわる重要な問題であり、そのため、令和2年度には機能更新の第一歩として、収蔵庫空調設備の改修工事を予定している。また近年、タブレットやタッチパネルなどのデジタル機器を活用した新しい展示手法や、体験型、参加型など以前にはなかった形式の博物館が増加している現状を鑑み、本市においても本事業における展示・公開および教育・普及活動の手法の見直しを図る必要がある。</p>	
<p>目標達成に向けた課題</p> <p>成果指標については、一定の成果を得られているものの、建物の老朽化や資料の増加に対応するため、計画的な施設・設備の機能更新および保管場所の確保・整備をすすめなければならない。また、展示内容の充実や調査・研究のため、池田市域の歴史・文化に関する資料の体系的な収集を継続することも不可欠である。学校教育と連携した出前授業については一定の成果を得られており、今後も継続して行う。</p>	<p>課題を踏まえた今後(令和3年度以降)の事業の方向性</p> <p>現状維持</p> <p>《上記方向性の理由・今後のスケジュール等》 施設・設備の機能更新、及び資料の保管場所の整備・確保については、教育委員会・市長部局全体の動きの中で調整・検討する。 資料の体系的な収集、調査、研究は今後も継続していく。そのうえで来館者の増加につながるような展示やイベントの企画、広報活動の充実を図る。 出前授業の対象学年の拡大など、学校教育とのさらなる連携を進める。</p>